

AGC旭硝子の高機能フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」が 国内初の大規模ETFE膜構造建築に採用

AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）の高機能フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」が、ETFEフィルムを使用した国内初の大規模膜構造建築物である「新豊洲Brilliaランニングスタジアム」に採用されました。

「アフレックス®」は、耐候性・光透過性・耐熱性などの優れた特徴を持つ高機能ETFEフィルムです。スタジアム全体を覆う屋根の部分に軽量の同ETFEフィルムを使用することで、支柱部分への加重負荷を大幅に軽減しました。また高い光透過性により、太陽光を取り入れ明るく開放的な空間を提供します。海外では、ドイツのアリアンツ・アリーナやブラジルのイタイパヴァ・アリーナ・ペルナンブコ等、世界各国の様々な大型スタジアムに採用されている「アフレックス®」ですが、日本国内においては膜部材を使用した大型建築物への初の採用事例となりました。

AGCグループは、長年培ったフッ素化学の高い技術力を活かし、快適かつ創造的な生活空間づくりに貢献していきます。



————— 参考情報 —————

◆新豊洲Brilliaランニングスタジアム◆

障がい者トップアスリートの強化訓練を行う他、ランニングをテーマに地域のスポーツコミュニティの育成を目的とした施設です。

- ・住所：東京都江東区豊洲6-9-1
- ・施設用途：スポーツ練習場
- ・建築主：太陽工業株式会社



◆膜構造建築物と建築基準法◆

膜構造建築物とは、膜材料を屋根や外装の部材を使用した建築物です。不燃性でないということから、膜材料の建築物への使用は、日本ではこれまで認められませんでした。近年の法改正により、一定の条件を満たせば建築物の部材として使用できるようになりました。

画像：新豊洲Brilliaランニングスタジアム（上図はイメージ図）